

## 2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

### 包括環境リスク研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	国環研のこれまでの膨大な研究実績を基礎としたこのプログラムは、3年目となる今期にも数多くの良い成果が得られている。今後さらなる成果の蓄積と環境行政への貢献を期待する。	コメントありがとうございます。今後とも、よりよい研究成果の蓄積と環境行政への貢献を進めてまいります。
	腸内バランスの変容と疾病との関係について、環境汚染物質全般に対する総合的な影響として研究を進められると良い。	有害物質によって特異的な点はある一方で環境汚染物質全般に対する影響として捉えるべきとのコメントについては、留意して研究を進めてまいります。
	脆弱な集団が、既に環境有害性因子による影響として喘息などが誘導されていることも考えられるので、体質的・家系的にアレルギーを起こしやすい集団を対象と捉えるなど工夫されると良い。	疾患を有する集団だけでなく体質的・家系的にアレルギーを起こしやすい集団に着目する視点についても参考にさせていただこうと思います。遺伝的要因による感受性差の問題は重要な課題であり、ヒトの知見も踏まえ検討してまいります。
	東京湾だけでなく、琵琶湖でも行ってはどうだろうか。琵琶湖は、閉鎖性水域であり、環境汚染物質の影響が出易いように思う。	ご提案ありがとうございます。まずは地理的に近くデータが蓄積されている東京湾や福島県沖の研究を継続していければと考えていますが、弊所の琵琶湖分室や自然共生プログラムなどで研究が進められており、連携について検討したいと思えます。
今後への期待など	測定困難な PFAS の定量法開発が出来たこと評価する。測定精度の向上と国際標準化の加速を期待する。	定量法について国際標準化が重要との指摘、まさにそのとおりであり、ありがとうございます。なかなか競争が激しい部分ですが、可能な限り進めてまいります。
	最終的なアウトプットがまだ見えにくい印象がありますが、今後のデータの統合や弾力的な研究の推進に期待する。	ご指摘ありがとうございます。ご提案のデータの統合や弾力的な研究をさらに推進していきます。
	テーマを共同で立ち上げることを今後できるのではないかと思う。	共同でのテーマについては、すでに各プロジェクト間で行っていますが、PJ5を中心にさらに進めていきます。